

り本質的な意見が述べられることが多々あり、Savtchenko の博学な助言と共に、大いに感心した次第。ACSYS 一色の缶詰生活の1週間余であったが、ACSYS コミュニティーに日本の活動を紹介できたこと、ACSYS の現況を、そしてとりまく国際的環境を

知りえたことなど、得るところの多い会議であった。今後、国内でも ACSYS を指向したグループ作りの必要性を感じた (日本学術会議 WCRP 専門委員会の下、ACSYS 小委員会が組織されることになった)。

(山内 恭)



日本雪氷学会全国大会における特別セッションのお知らせ

来る10月24日から26日にかけて開かれる日本雪氷学会全国大会において、極地雪氷分科会の主催で下記の特別セッション「極地雪氷コア解析結果の解釈に向けて」を開催いたします。これまでの大気や雪氷の研究成果を踏まえて、今後の「氷床ドーム深層コア解析結果の解釈を拡充するプロセス研究」として何があるのかを議論する場を設けました。深層コア解析の学際性に配慮し、雪氷学会員以外の方の招待講演も予定されておりますので、多数の方のご参加をお待ちしております。

本件に関するお問い合わせは：

世話役 長田 和雄

〒464-01 名古屋市千種区不老町

名古屋大学太陽地球環境研究所東山分室

Tel : 052-789-4305, Fax : 052-789-4306

e-mail : osada@stelab.nagoya-u.ac.jp

特別セッション

「極地雪氷コア解析結果の解釈に向けて」

日時：1995年10月24日(火) 13:30~17:00

場所：名古屋大学 シンポジオン

招待講演：

R. Koerner 「Ice Core Interpretation : A perspective」

青木 周司 「アイスコアと大気微量成分」

植松 光夫 「南極域における大気中エアロゾルの起源と変動」

林 政彦 「極域エアロゾルはどこからきてどこへゆくのか」

本堂 武夫 「氷床コアの物理解析がもたらす新たな情報」

庄子 仁 「南極ドームFにおける積雪の圧密過程の研究の重要性」

他、3件を予定

て、日本（そしてアジア）からの出席者が一人もいなかった。これは、この分野が欧米主導であるためであろう。アジアにおいて新たな視点をもって気候研究を発展させてゆく重要性和責任を痛感させられた。

付記：参加者リスト

・CLIVAR 側：L. Bengtsson, M. Cane, J-C. Duplessy, K. Mooney, A. Navarra, G. Philander, E. Sara-

chik, J. Shukla, A. Abe-Ouchi

・PAGES 側：E. Bard, A. Berger, E. Boyle, R. Bradley, K. Briffa, W. Broecker, J. Cole, E. Cook, E. Druffel, R. Dunbar, E. Fairbanks, R. Frassetto, P. Grootes, M. Hughes, E. Jansen, S. Johnsen, S. Joussaume, J. Jouzel, S. Kroepelin, G. Kukla, L. Labeyrie, J. Overpeck, J. Paetzold, N. Shackleton, T. Stocker, L. Thompson, R. Thunell, J. White.



教官公募

1. 公募対象 寒冷海洋圏科学部門 (気象学)・助手 1 名

研究内容 当研究所は、本年度、寒冷圏および低温条件下における科学現象の基礎と応用の研究を目的とする全国共同利用の研究所として改組されました。その中で、当部門では寒冷海洋域が地球全体の気候システムにおいて果たしている役割の研究を中心課題としています。このたびの公募では、寒冷海洋域における大気現象を主として観測的手法によって研究する人を希望します。また、海洋との相互作用に関心を持っている人を希望します。

2. 着任時期 決定後なるべく早い時期

3. 提出書類 ①履歴書 ②主な研究歴 ③研究業績リスト ④主要論文別刷 5 編以内 (リストに○印)⑤これまでの研究概要 (2

千字程度) ⑥これからの研究展望 (2千字程度) ⑦応募者についての意見を聞ける人があれば 2 名まで、氏名および連絡先

4. 公募締切 平成 7 年 11 月 11 日 (土) 必着

5. 提出書類送付先

〒060 札幌市北区 19 条西 8 丁目
北海道大学低温科学研究所
所長 秋田谷 英次

封筒の表に「寒冷海洋圏科学部門助手 (気象学) 応募書類」と朱書し、書留で郵送して下さい。

6. 問い合わせ先

寒冷海洋圏科学部門教授 竹内謙介

TEL: 011-708-5470,

E-mail: takeuchi@clim.lowtem.hokudai.ac.jp

中吉会員は今後も気象災害の軽減、防止を目的とした調査研究を通して気象学および気象業務の発展に寄与することが大きいと期待されるので、本学会はここに奨励金を贈るものである。

受領者：西岡佐喜子（奈良地方気象台）

研究題目：太平洋域の上層雲量等と西日本の天候についての研究

選定理由：西岡会員は昭和60年に広島地方気象台に採用され、続く大阪管区気象台、奈良地方気象台で現業勤務のかたわら研究調査活動に励んできた。特に長期予報の分野に関心が深く、太平洋の広い地域の雲量や海面水温と西日本の天候の関係について調査研究を進めてきた。

一例として、日本付近から赤道に到る東経130度付近の気象衛星によって得られた雲量の時系列図を作成し、日本付近の前線活動、太平洋高気圧および熱帯収

束帯の活動度や位置の変化等を扱った研究がある。この研究では、日本の冷夏年と暑夏年では熱帯収束帯の位置や活動度に明瞭な違いがあることが示された。また、暖候期のフィリピン付近の海面水温と西日本の夏の気温との高い相関や、太平洋高気圧の軸の緯度と夏の気温との相関関係等も明らかになった。こうした調査結果や解析手法は日本付近の天候変動を監視するための指標として予報業務に利用されている。

現在は、近畿地方の各官署の気象要素の特性を統計的手法によって調べる研究を進めており、地域毎の天候特性の違い等を明らかにすることをめざしている。

西岡会員は時間的制約の大きい現業勤務の中で、また利用できる資料や計算機にも制約の多い環境で積極的に調査研究を行っており、今後も気象学および気象業務の発展に大いに寄与することが期待されるので、本学会はここに奨励金を贈るものである。



東京大学気候システム研究センター公開講演会

—「気候システムの謎を探る'95」—

開催日時：1995年11月25日(土) 13時～17時

場 所：東京大学安田講堂

(東京都文京区本郷7-3-1)

講 師：東京大学気候システム研究センター教官

住 明正・高橋 正明・山中 康裕

内 容：地球温暖化の現状、オゾンを含めた成層圏の秘密、地球の形成過程から現代に至る古気候

質 問：当日は質問タイムを設けますが、事前に文書で質問をお受けし当日お答えする事も可能です。

入場無料、予約不要です。高校生以上の方のご来場お待ちしております。

問い合わせ先：東京大学気候システム研究センター
研究協力係長 五十嵐

(電話 03-5453-3953)